

二〇二二年度 中学 帰国生 入学試験問題

国 語 (60分)

△注 意▽

- (一) 開始のチャイムが鳴るまで、この冊子を開いてはいけません。
- (二) 問題は1ページから5ページに印刷されています。
- (三) 受験番号と氏名は解答用紙①および②の定められたところに記入しなさい。
- (四) 解答はすべて解答用紙①および②の定められたところに記入しなさい。

受 験 番 号			

I

以下の設問に答えなさい。

【問1】 次の①～⑮について、――部のカタカナをそれぞれ漢字に直しなさい。また、⑯～⑳について、――部の漢字の読み方を

ひらがなで書きなさい。

- | | | | |
|---|------------------|---|-----------------|
| ① | セイダイなパーティーを開催する。 | ⑪ | 朝早く目がサめる。 |
| ② | 子どもの意見にシタガう。 | ⑫ | チヨキンを使い果たす。 |
| ③ | 退院後の祖父をカンビヨウする。 | ⑬ | トウトイ命を守る。 |
| ④ | 野菜をこまかくキサむ。 | ⑭ | ドウソウカイに出席する。 |
| ⑤ | 新たな結論にイタル。 | ⑮ | センモン家に教えてもらう。 |
| ⑥ | 運動会がエンキになる。 | ⑯ | 本を著す。 |
| ⑦ | 王座にクンリンする。 | ⑰ | 枝葉末節にこだわる。 |
| ⑧ | 世界中にブンブしている。 | ⑱ | 巖かに式が進む。 |
| ⑨ | 命にベツジヨウはない。 | ⑳ | 筆舌に尽くしがたい経験をする。 |
| ⑩ | 名前をツラねる。 | | その可能性は否めない。 |

【問2】 次の①～⑤の慣用句について、に当てはまる語を（ア）～（カ）の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

また、その意味として適当なものを（キ）～（サ）の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

慣用句

- ① を差す
- ② が上がる
- ③ を皿にする
- ④ をかぶる
- ⑤ によりをかける

語

- （ア）腕うで
- （イ）目
- （ウ）口
- （エ）株
- （オ）猫ねこ
- （カ）水

意味

- （キ）本性ほんしょうをかくすこと。
- （ク）じゃまをすること。
- （ケ）よく見ようとすること。
- （コ）その人の評判が良くなること。
- （サ）能力を十分に発揮しようとすること。

II

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

ファストフード大手の米マクドナルドは全世界に店舗を展開し、似たような商品を各国で提供しています。このため、しばしば価格比較の指標にされるのですが、ここでも日本の安さは際立っています。

国際的な価格比較サイト「Numbeo」によると、日本のマクドナルドにおけるセット販売の平均価格は695円となっており、これに対してニューヨークは986円、シドニーは853円、パリは1055円となっており、先進各国は総じて日本よりかなり高い状況です（2020年2月時点での価格）。

アジアに目を移すと、香港が493円、上海が556円、バンコク（タイ）が617円、シンガポールは651円となっており、もはや日本と大差はありません。

カフェの値段はどうでしょうか。

日本におけるカップチーノの平均価格は388円ですが、上海では466円、香港では506円、パリは416円、バンコクは253円、シドニーは302円、ニューヨークは515円、シンガポールは444円でした。バンコクとシドニーの価格はかなり安いですが、それ以外の都市では基本的に日本よりも高いと考えてよいでしょう。

諸外国と比較した場合、あらゆる面で、日本の価格が安いことはほぼ間違いないさそうですが、ここで疑問を持った読者も少なくないでしょう。

米国や欧州など、豊かな先進国の価格が日本よりも高いことは納得できるとして、中国やタイなど、新興国の価格までが日本と同レベルかそれよりも高くなっていることについて、にわかには信じられないという人も多いと思います。

当然ですが、中国やタイといった新興国全体の平均賃金は、日本人の賃金が下がったとはいえ、まだまだ安いというのが実状です。しかしながら、以前とは異なり、経済のグローバル化が進んだことで、国が違つとすべての価格が違つという状況にはなつておらず、

新興国でも一部の人は、高い賃金をもらえるというケースが増えているのです。

グローバル企業きぎやうの場合、どの地域の社員であつても、ほぼ同じ水準の賃金を支払うしはらのが当たり前となつており、その国の平均賃金はあまり関係しません。

つまり、アジア地域の労働者であつても、相応の教育を受けてグローバル企業、もしくはそれに類する企業に就職した人の場合、1年目から数百万円の年収を稼ぐかせのは当たり前となっています。そうになると、全体の一部とはいえ、日本と同レベルの物価であつても、モノやサービスをバンバン購入こつぽうする人が一定数存在してもおかしくないことになります。

特に中国の場合、14億人も的人口がありますから、仮にそうした所得層が5%しかいなくても7000万人の市場規模になります。上海や香港にはこうしたビジネスパーソンがたくさんいますから、結果として物価も高くなり、彼等かれらが日本にやってきた時には、「安い」と感じるようになります。

グローバル化が進む時代というのは、世界において価格が共通化していくことを意味しており、各国の物価の連動性はより高くなります。

以前の社会では、国が違つと国民の生活水準もまったく違つというのが当たり前でした。しかし近年では、どの国で生活しているのかではなく、各国においてどの階層に属しているのかでライフスタイルが大きく変わるようになっていっています。

かつては、日本の中間層がアジアに行けば、まるで富裕層ふゆうそうのような気分を味わうことができました。しかし、現代社会では、日本において平均的な所得以下しか得られない人は、アジア地域における有名企業の社員よりも生活水準は大幅おほはばに下がつてしまいます。国全体が貧しくても、グローバル基準を満たす企業の社員になれば、先進国の人たちと同じ生活を送ることが可能です。

どの国に生まれてもチャンスがあるというのはよいことですが、逆に言えば、各国において、相対的に高い所得を得る層に属していないと生活が苦しくなるといふことでもあります。

これまでの日本社会では、普通ふつうの仕事に就いていけば、それなりに豊かな生活を送れるというのが一般常識いっぱんじでした。しかし、これ

からの時代は規模が大きくても、グローバル水準の賃金を支払えない企業で働く場合、生活は決して豊かにはなりません。日本から一歩も出なくても、全世界と戦っているようなものですから、ある意味ではとても厳しい時代に入ったと考えることもできるでしょう。

(加谷珪一『貧乏国ニッポン』幻冬舎新書、二〇二〇年五月より。なお、本文には省略した箇所がある。)

【問1】 この文章を一〇〇字程度で要約しなさい。

【問2】 この文章を読んであなたが考えたことを、四〇〇字程度で書きなさい。

